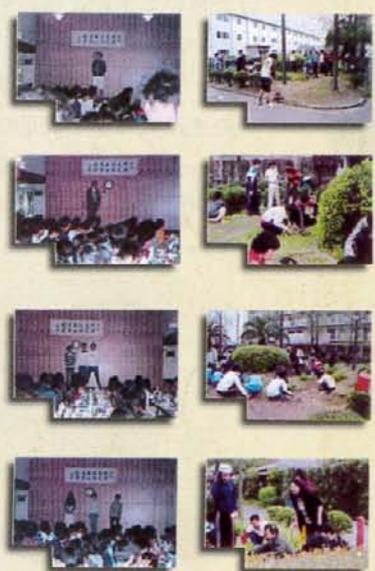
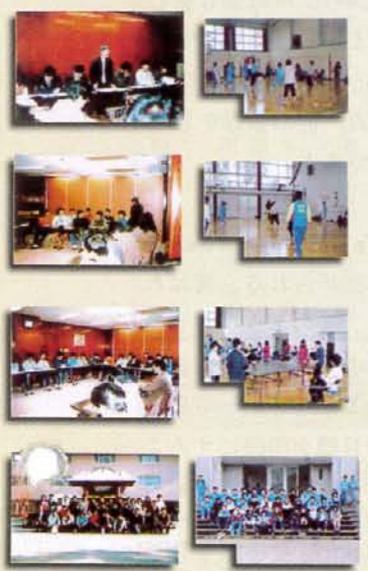
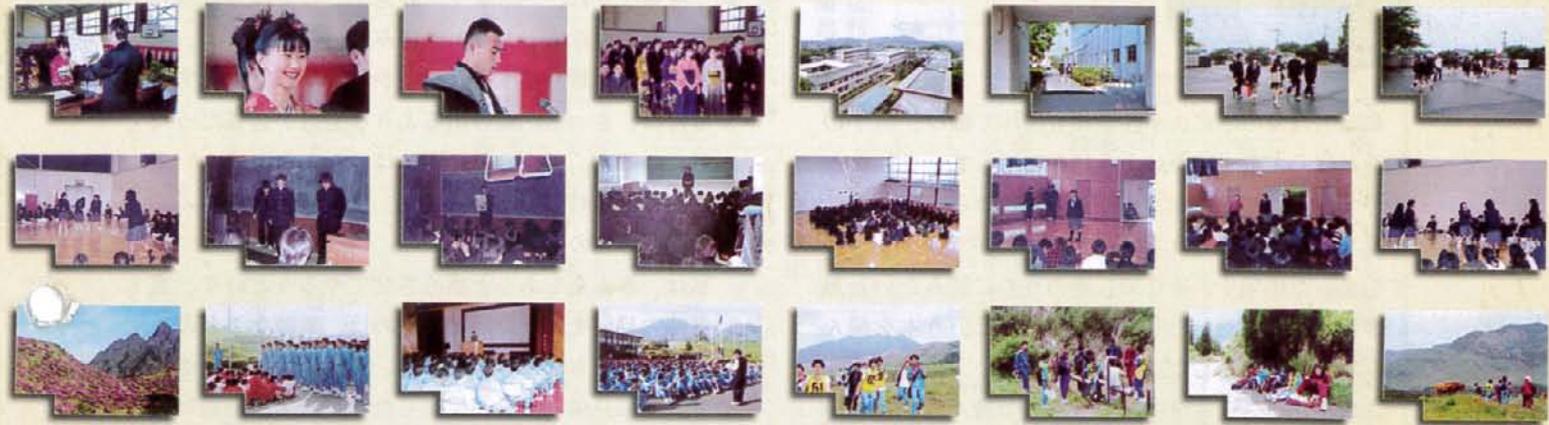


有明高専だより

第101号
2000.6



校長・主事室だより	2
新任教職員紹介	4
退職・転任教官	6
留学生紹介	7
4年生研修旅行	8
新入生オリエンテーション	10

目次

キャンパスクリーン・球技大会等	11
岱明寮だより	12
卒業式 送辞・答辞	13
卒業生の進路・表彰	14
学生表彰	15
増・改築工事竣工報告・編集後記	16





「他人が感心する 見栄を張ってみよう」

校長
山藤 馨

私は、今年の冬に、不注意にも滑って転び、右手の親指が痛くて動かさなくなりました。そうすると、ワイシャツのボタンを留めるといった、普段なんでもなくやれるいろんなことができなくなりました。そこで、そのうちに読みたいと思いい書棚に積んでおいた『五体不満足』という本を読んでもみる気になりました。

この本はベストセラーになったので読んだ人も多いと思いますが、当時早稲田大学の学生だった乙武洋匡という人が書いたものです。読み始めて驚いたことには、彼は、生まれつき、両手も両足もないという、ものすごく五体不満足な方なのです。

一気に読み終わっての最初の印象は、乙武さんは、良い意味で「見栄を張って」生きている方だということ

とでした。例えば、高校時代に、バスケットボールの選手として対外試合に出場しているのです。機敏にドリブルしながら相手の選手の間を抜いてゆくのです。でも、両手も両足もない身で、どうやってドリブルができるのでしょうか。皆さん、想像できますか？そういう身体なのに、バスケットの選手として対外試合に出て、みんなをあっと言わせてみたいというのは、乙武さんの「見栄」ですよ。しかし、その見栄を実現するには、きっと、血の出るような努力が必要だったと思うのです。でも、その本には、その努力についてはさりと触れているだけです。これも、乙武さんの見栄だと思うのです。

私は、みんなをあっ后感心させてやろうという、良い意味の見栄を張りたいと思うのは、素敵なことだと思います。でも、そのためには、人一倍の努力が必要です。同じ見栄でも、茶髪にしたり、ピアスを着けたりするのは、努力なしにできますから、みんなも感心はしませんよね。今、新学期が始まったばかりです。皆さんも、何か、他人があっ后感心するような見栄を張りたいと思って、それに向けて人一倍の努力をしてみませんか。できたら、良い気分ですよ。



「意欲的に 生活しよう」

教務主事
宮川 英明

就職面接試験では、高専生活で人一倍熱心に頑張ったものは何ですか、という質問が多いと聞いています。これだけは誰にも負けないくらい真剣に打ち込んだと言えるものがあるかどうかを見られるわけです。つまり意欲、情熱、実行力などが高く評価されるのです。意欲がなければ、たとえ立派な講義を聞いても、すばらしい部活に入っても、努力も成果もあまり期待できません。

心の働きは理屈で分かっているとしても簡単には変えられないことを経験的に知っていると思います。では意欲や実行力はどうしたら高められるのでしょうか。例えば、好きなことに熱中して取り組み、成長感、充実感、達成感を感じることによって育む。生き活きと意欲的に生活している人に近づき、感化されることによって

奮起する。自分の行為が評価され認められる、喜ばれ感謝されることによって強化する。このようなさまざまな方法が考えられます。自分にあった方法で意欲を高めながら充実した高専生活を送ることを願っています。さらに、将来就きたい職業や目標を明確にすることで、それに向けてなすべきことに意欲的に取り組むことができるのではないのでしょうか。

試験直前だけ徹夜勉強をしたたとえ合格点をとったとしても、応用力はおろか知識が身につくことは期待できません。学校では道案内人である先生に従って学習しているので理解できたように思っても自分一人で問題が解けるほどには理解していないものです。意欲的に日々家庭学習に取り組み、自分の頭で全体を再整理することが必要です。整理しながらまとめていくとわずかな量に集約された大事なエッセンスが見えてきます。そのエッセンスを掴むことが学ぶことの本質だと思います。そのエッセンスからはいろいろなものを紡ぎ出すことができ、豊かな発想もそこから生まれるものと考えられます。

学ぶことは高等教育機関に在籍する人の責務であり、卒業後は、社会に貢献する義務もあります。このことを自覚した意欲ある取り組みを期待しています。



「努力の継続」

学生主事
仁田原 元

クラブ活動の顧問である私は、試合に勝つために、自分なりに努力し、試合に勝ったときには、努力が報われたと思い選手と共に歓喜し、次の目標に向かって一層意欲的になりました。一方、試合に勝てなかった時は、努力が足りなかったのでは、練習の方法が違っていただけではないかと大いに反省します。しかしながら反省点を克服し、練習を休まず、むしろより多く頑張ったとしても試合に勝つという保証はどこにもありません。逆に半分の練習で勝ったり記録を出したりすることさえあります。

東京オリンピック、バスケットボール監督吉井四郎氏の著書の中にも次のようにあります。人は努力の報いが確実にあるものについては、その努力を継続することは容易であろう。もし、今までの2倍努力すれば

必ず次の試合に勝てるという確固たる保証があれば、おそらく多くの人は努力することに耐えることができるでしょう。しかし、そこに何の保証もなく、いかに努力しても勝てない可能性があるとき、誰でもが自己の最善を尽くし、それを継続することができるでしょうか、自分の弱さに妥協してしまうことが多いのではないのでしょうか。スポーツマンの真の苦しみがここにあり、スポーツを通して人間的に鍛えられる最も大きな場だと思っています。私達はいかに努力したとしても勝てないかもしれない。しかし、より努力しなければ絶対に勝てない。私達が勝つことができるかもしれないただ一つの方法は自己を信じ、チームの勝利を信じて毎日の練習に最善の努力を継続すること以外にはないのです。そのような努力を継続した後に出た結果を、悲観的にとらえては大きな挫折感を味わうこともあるでしょうし、その努力が報われなかったと錯覚することもあります。目の前の目標だけしか見れないようでは、その向こうに横たわっている可能性に満ちた人生の大きさがわからないのです。

私達は人生という大きな偉大なゲームでの勝利者を目指し、夢と希望をもって努力を継続しようではありませんか。



「熱力学第2法則… 無駄のすすめ」

寮務主事
吉田 正道

熱力学をあきらめる学生の大部分が「熱力学第2法則」が出てくるあたりで「わからん……、やめた」と決意する。これは、「熱力学的温度」とか「エントロピー」などという、得体の知れないものをいっしょに理解させようとすることに問題があり、学生は「わからんのは教え方が悪い」ぐらい思っていればよい。この法則は、例えば1リットル100円で買ったガソリンのうち、バイクや車を走らせるために使われているのは、いくら頑張っても28円分くらいで、残りはいたずらに大気を暖めているだけであり、結局むなしく捨てているということを言っているだけだと認識できればそれでほとんどOKである。実は280ccを100円で買っているのである。この点ではガソリンとは恐ろしく高い買い物なのである。熱力学とはこの無駄を認めるところから始まるのであり、言うなれば懐の深い学問で

ある。熱力学が主事室だよりになんの関係があるのかと思われるかもしれないが、私は、この無駄を認めるということが学寮生活ひいては学生生活にとって重要ではないかと最近思っている。学寮では、寮生会主導体制が確立しつつあり、指導寮生が新入生の指導に当たっている。彼らの指導達成率はかなり高いが、それでも100%とは行かない。自分たちの指導に無駄があったことに彼らは悩み、新たな指導方法を検討し実行する。この過程を経て指導寮生自身も成長する。無駄が次の発展を生むのである。なんでも、完璧にできなくてもよいではないか。無駄があってもいいし、捨てるものがあっても気にしないおおらかな気持ちを大切にしたいものだ。あいさつを出し渋ってもしようがない。無駄だと思っても、会う人すべてにあいさつしてみてもよいではないか。あいさつされたら、どんな人に対しても返礼しようではないか。大切なのは無駄を認める積極的な姿勢である。「あんなことやって、なんになるの」と思うことがたくさんあるかもしれないが、どうせやらなければならないなら毎日のことだし前向きにやった方がいいに決まっている。それがいつかきっと自分のためになる。懐を深くしよう。無駄を惜しまず、あれこれ言う前に行動しよう。そうすれば自分を正しい方法で表現できると思う。俗明寮はそんな学生がたくさん育つ寮であってほしいと思う。

新任教職員紹介



電気工学科 教授
うち うみ みち ひろ
内 海 通 弘

- A1 九州大学大学院総合理工学研究科量子プロセス理工学専攻電気プロセス大講座の寄附講座で客員助教教授をしていました。
- A2 静かな森にある田舎の学園村といったところでしょうか。時間を工夫していけば、教育・研究環境としては悪くないと思います。高専生は人なつこく、礼儀正しく、疑うことを知りません。若く、フレッシュです。
- A3 趣味は、特にありませんが、強いて言えば、家族とのドライブや映画鑑賞、音楽鑑賞でしょうか。
- A4 これまで、大学院教育に携わってまいりました。今後は、若年層の教育に取り組むわけですが意外と違和感はありません。現在の大学のシステムでは、若い時期に研究することができない状況にあります。むかしは、ガロア、パウリなど20歳前後の若い学者が活躍した時代もあります。卒業研究には、最先端の内容を取り込んでいきたいと思えます。また、研究面では、中央にお伺いを立てないでもできる研究をしたいと思えます。環境に関する情報工学を進めていきたいと思えます。



物質工学科 講師
まつ お あき ひろ
松 尾 明 洋

- A1 九州大学大学院総合理工学研究科分子工学専攻を昨年の4月に修了し、名古屋大学物質科学国際研究センターに日本学術振興会特別研究員として勤務していました。九州大学では電子衝撃による分子の解離過程の研究と新しい測定法の開発、名古屋大学では色素分子の薄膜作製装置の開発を行っていました。
- A2 高校とも大学とも違う、何だか不思議な空間にいるような気がしました。元気で素直な学生が多いように感じられます。
- A3 ドライブでしょうか。車があればどこへでも行ってしまいます。最近は授業の準備が楽しみ?になっています。
- A4 着任して1ヶ月になりますが、すでに学生から多くのことを学んでいます。それに応えて、化学(科学?自然?)に興味を持つような授業を行えればよいなと思っています。



物質工学科 講師
ほし よし かず
星 良 和

- A1 広島大学理学部遺伝子科学専攻で教育研究に従事していました。主に、絶滅の危機に瀕する植物を対象として、地球環境保全を目的とした組織培養による大量増殖法の確立、特性評価のための特定遺伝子の物理的マッピング、およびインサイトハイブリダイゼーション法を用いたゲノム分析をしていました。
- A2 四季の緑に恵まれた、教育的に環境のよい印象を受けました。
- A3 スキーを楽しんでいます。
- A4 学生に高度な専門技術を教育する場で、これまで行ってきたゲノムや遺伝子の解析研究に加え、新しい技術を取り入れた遺伝子工学、染色体工学といった複合的分野を開発しながら、教育と研究をうまく両立させていきたいと考えております。どうぞよろしく申し上げます。



建築学科 助手
いわ した つとむ
岩 下 勉

- A1 熊本大学大学院自然科学研究科(建築学専攻)で、鉄骨ラーメン骨組での溶接接合部から発生する脆性破壊に関して研究を行っていました。引続きその研究をしています。
- A2 御存知の方も多いでしょうが、私はこの卒業生で、実際に学生と接するまでは少し不安もありましたが、基本的に皆素直で、明るい学生が多いのは変わっていないと感じました。
- A3 キャンプなど、最近の流行になっていますが、自然の中で過ごすことが好きです。そうかと思えば、賑わいのある町を歩いてまわることも好きです。現在、官舎に住んでいるので、その広い(?)庭を利用して園芸に手を出そうかと考えています。
- A4 私自身、豊富な経験があるわけではありませんが、少しでも多くの学生が自分自身の目指す方向を見つけることができるよう、努力していきたいと思えます。そのためにも自分自身、積極的にいろいろなことを経験していこうと思っています。

★新任の教職員の方々を次のQ&Aで紹介します。

- Q1 本校に来る前は
Q2 本校あるいは本校学生の印象について
Q3 趣味は
Q4 抱負を一言



事務部長
はつき てつ ろう
羽月 鉄郎

- A1 九州管区行政監察局からまいりました。
A2 学校としてまとまりがあり、活気ある職場という印象を受けています。学生も礼儀正しく感心しています。
A3 釣りです。(落ち着いたら、三池港で竿を出してみようと思っています。)
A4 これからの日本の「モノづくり」を支える学生の皆様のために、少しでも役立つことができればと思っています。



会計課施設係長
おかの まさよし
岡野 公嘉

- A1 九州大学施設部建築課で勤務していました。私は昭和57年に本校建築学科を卒業しておりますので、ここで施設整備業務ができることを光栄に思います。
A2 くだびれた校舎には、高専の歴史がきざまれ、校内の緑も成長したなと思います。そんななかで新しい風が吹き始めていることを実感しています。
A3 動いているボールを追いかけるのが好きでしたが、この頃は、止まっているボールに命を吹き込んであげてコントロールする修行をしています。
A4 全国の高専が、それぞれの特徴と個性をだすことに努力しているようです。有明高専はその先駆者になる学校なので苦労も多いなかで頑張りたいと思います。



会計課用度係
にし はら かつ あき
西原 克明

- A1 熊本大学医学部付属病院第一用度係で2年半、契約第5係で半年間勉強してきました。
A2 大学とは違い、元気よく新鮮な感じがします。
A3 スポーツとスポーツ観戦です。
A4 3年間という短い間の経験を少しでも生かせるように頑張りたいと思います。



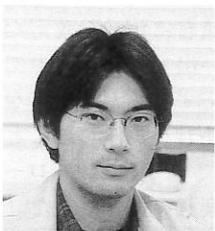
学生課長
いの うえ ただし
井上 直志

- A1 広島大学理学部に勤務していました。高専卒業生の編入学のお手伝いもしていました。
A2 教育熱心な先生方と挨拶のできる明るい学生さん達だなと思いました。
A3 もっぱらウォーキングです。汗をかきながら一所懸命に歩いている私を見かけたら声をかけて下さい。
A4 本校のお役にたつことが私の仕事だと思っています。



会計課出納係 出納主任
あし え むつ お
芦江 睦夫

- A1 八代工業高等専門学校会計課総務係に勤務していました。昨年の10月に有明高専に赴任しました。
A2 自然環境に恵まれ、勉学およびスポーツに専念できる学校という印象を受けました。
A3 スポーツ全般(下手ですが)と麻雀です。
A4 皆様にご迷惑をかけないように頑張りますので、よろしくお願いします。



電気工学科 技官
よし とみ たか し
吉富 貴司

- A1 有明高専の電子情報工学科を卒業後、東京の電機メーカーに勤めていました。
A2 数年前まで自分があの中にいたと思うと懐かしく思います。さすがに高専生、活発な学生が多いですね。
A3 ドライブです。休みの天気の良い日に車を運転するのが好きですね。
A4 少しでも早くこの環境に慣れて、みなさんに迷惑をかけることのないよう頑張っていきたいと思います。よろしく御指導願います。



お疲れさまでした



～退職・転任教官より～

平成12年3月をもって退職・転任された2名の先生方に、次の3点について述べていただきました。

- Q1 高専で思い出に残ること
- Q2 高専あるいは学生に望むこと
- Q3 今後のことについて

A1

本校着任は平成4年。1期生の4I担任として翌年の就職活動を意識し、夏期実習を突のあるものにすべく、実習先開拓・実習マニュアル作成・実習後の礼状（本人も担任も）など手を打った。振り返ればバブル崩壊の前年で、企業倒産件数が増えている時期だった。

就職活動に入り、新設学科の知名度の低さ・先輩の不在・女子学生の多さなどのハンディキャップ克服に努める一方、支援体制（ファイル・情報提供・事務処理）の整備を行った。この時期の他学科からのお力添えには今でも感謝している。鹿児島高専のM科・I科からも貴重な助言をいただいた。お陰で1月10日、最後の1人の内定通知を受けることができた。

1期生もすでに勤続6年。実務をまかされて張り切っているところだ、と期待している。

A2

着任時の始業式でのあいさつで「物作りの楽しさを伝えたい」と話したけれども、授業の中では、物作りの厳しさや心得の方を強調し過ぎ



電子情報工学科

石井 康太郎

たかも知れない。商品の設計・製造に『部分点』はないから。

しかし人間のすること、「^{あやま}過ちては則ち改むるに^{はばか}憚ること^{なか}勿れ」（論語）も大切な心得である。

A3

定年退職と単身赴任解消で生活が大きく変わるので、まずは健康維持を心がけたい。ウォーキングも。これは婦唱夫随。

専門技術の分野では、地域企業の手伝いができるように、しばらくは充電に当てたい。

最後に、有明高専の今後のご発展を祈ります。

A1

教育の最前線に立つ機会を得て、私の高専に対するイメージと現実との差にカルチャーショックを受けました。そして、一つの時代と社会の一掃結について、いろいろと考えさせられました。また、技術教育と基礎学力としての教育は、異なるものであるということも分かりました。一言でいうと、有明高専で文部教官に採用され、2年間延べ7クラスの学生諸君に化学を教えたことそれ自体が忘れ得ぬ思い出です。その中で一番の印象は、子供とも言えず、孫とも言えない世代の44名の1Iの学生諸君を担任したことです。ユニークな学生が多く、クラスのフォローをしている限りにおいて、楽しい毎日でした。学生達と1年間を一緒に過ごし、多くの発見があったような気がいたします。彼らは、私の脳裏において永遠に16歳です。その他、教育とは離れますが、雨の音、夏の陽射し、蝉しぐれ、冬の寒気、有明海の夕日、小岱山と焼き物、豊原の骨董屋、黒川温泉、雄大な阿蘇山、太宰府天満宮、有田の陶器市なども心に残る思い出の1つです。

A2

高専では受験勉強がありません。その気になれば余裕をもって勉強をすることができます。毎日の授業に前向きに取り組んで、高専における5年間に、技術者としての基礎学力を十分つ



一般教育科 化学

浅野 泰一

けて卒業して下さい。社会に出てから技術者として与えられた課題を自ら解決するためには、高専で身につけた基礎学力を有効に活用して、自分の実力としてその任に臨むことを要求されます。

A3

今後3年間、八戸高専物質工学科で分析化学、機器分析、化学計測および実験と卒研を担当することになりました。期間も短く、60の手習いは大変です。1日1日を大切に、授業と研究内容を充実させ、その成果を実り豊かなものになりたいと考えています。

最後に突然の方向転換で多くの方々にご迷惑をおかけいたしました。入る時と出る時に機会を与えていただいた学校に心から感謝の意を表するとともに、教職員の皆様と学生諸君のご健勝と益々の発展を、遠く離れた北の地よりお祈り申し上げます。

留学生紹介

今春、新たに3名の留学生がやってきました。母国の紹介や日本の印象について述べてもらいました。



電気工学科 3年
ジェイ(フィリピン)

方角にいっぱい並んでいて、人間の形をしている集まりの島が、それです。全部で7,107の島があります。そこには、きれいな浜辺がたくさんあります。それぞれの島では方言が使われています。全国で100種類ほどあるそうです。そこで、タガログと言う言葉を共通

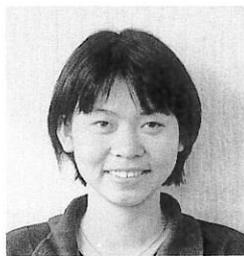
私は、フィリピンの首都マニラから来ました。日本人に「フィリピンのことについて何を知っていますか?」と聞くと、すぐ「バナナ」という元気な声が返ってきます。

フィリピンは台湾の南側にあります。地球儀を見てみると東南アジアの

の言葉にしています。

スペイン、アメリカ、中国、マライとインドの国々の影響によってフィリピンの文化ができました。私の家族の祖先はスペイン人だそうです。だから、私の家族はキリスト教を信仰しています。アジアの国々の中でフィリピンはキリスト教の人がとても多いと聞いています。

私は大学時代の始めごろ、留学したいという気持ちを持っていました。運良く、去年の4月に日本語の勉強のために日本に来ることができました。1年間東京で日本語の勉強をしました。他の人と一緒に勉強することは本当に忘れられない思い出となりました。これから日本語以外にも、もっと日本の文化や技術を深く学びたいと思っています。



電子情報工学科 3年
タン(マレーシア)

いるすばらしい海岸をどこでも見ることができます。母国の主食は日本と同じ米です。ほとんどの人々は手で御飯を食べています。マレーシアの料理は辛いものが多いです。マレー系をはじめ、中国系とインド系が私の国の主要な民族です。それぞれの文化が異なるけ

東南アジアにあるマレーシアという国が私の母国です。首都はクアラルンプールです。母国はマレーシア半島と西マレーシアに分かれていて、海に囲まれています。だから、マレーシアではたくさんの魚と石油が採れます。ココナッツの木が繁って

れど、互いに理解して一緒に住んでいます。これは、マレーシアの特徴の1つです。母国の言語はマレー語ですが、それ以外の母国語を自由に勉強できます。

マレーシアは熱帯地方だから、果物がたくさんあります。例えば、ドリアン、パパイア、バナナなどがあります。ドリアンは果物の王と呼ばれています。マレーシアには見るところがたくさんあるので、皆さんぜひ訪ねてみてください。

日本に来て、1ヶ月が経ちました。日本の生活に少しずつ慣れてきました。私が心配なのは日本の冬です。春がとても寒かったので、冬の寒さはイメージできません。高専の先生方は優しく、親切なので、寂しさもあまり感じません。日本は人口が多くて、繁栄している国です。でも、物価が非常に高いことにびっくりしています。これから、よろしくお願いします。



物質工学科 3年
リラ(インドネシア)

はジャカルタで、西ジャワにあります。ジャカルタは大きな都市で人口も多いです。

私は高校を卒業するまで、ずっとジャカルタに住んでいました。去年の4月に日本に留学することになりました。日本に来たばかりの時は本当に寒くて、手の

初めまして、リラと申します。インドネシアから来ました。インドネシアは、日本と同じような島国です。約13,000の大小の島が赤道付近の位置にあります。

主な島は5つあり、その中の1つはジャワ島です。インドネシアの首都

指が凍えるほどでした。東京で日本語を勉強して、最初は大変でしたが、先生方のおかげで日本語がだいぶ話せるようになりました。

そして、初めて独り暮らしの生活をするのも大変でした。幸いなことに先輩方にいろいろと助けてもらいました。それから留学生会館に住むようになるといういろいろな国の友達ができました。とても楽しかったです。この1年間で日本の文化や習慣も少しずつわかるようになって来ました。

今年の4月に有明高専へ来ました。時間の経つのは早いものです。もう1ヶ月が経ちました。今、有明高専の学生として勉強をしています。充実した3年間を送りたいと思っています。

行ってきました 研修旅行

平成12年5月16日(火)~19日(金)

機械工学科

4M 原田 浩二

我々4年機械工学科は5月16日から19日まで3泊4日の研修旅行に行った。16日福岡空港発、豊川にてミノルタ工場見学、豊橋で1泊。17日に同じく名古屋にてトヨタ自動車、三菱重工の見学を行った。17日の工場見学終了後、新幹線で東京へ移動。18日は東京での一日自由研修。東京では品川で2泊。19日は東京からバスで横浜ベイブリッジ、中華街へと移動し、羽田から福岡へ空路で移動、空港にて解散、という日程だった。

工場見学した三菱重工では実戦配備されている戦闘機が整備のために戻ってきているところを見ることができ、とても貴重な経験をした。トヨタ自動車の工場見学では組立ラインの見学のみで、実際の走行テストやパーツの生産の工程などは見るができなかった。ミノルタでは無人搬送車によってライン間の製品やパーツの輸送を行っていて、効率よく生産していた。また、ミノルタでは96年11月27日にISO14001を取得後、ゴミを何らかの形に変換することによってゴミを減らそうと言う運動が行われていた。紙くずの場合、燃やすことによって熱エネルギーに変換するといったように再利用できるものは再利用し、極力ゴミを出さないようにしていた。



東京での自由行動ではクラスの皆さんは自分で計画していた予定とは少し違ったものの、思う存分東京を満喫できたようであった。私は上野、浅草、渋谷を回り、渋谷は午後5時を過ぎると人が増え、東京にいるんだなあと思わぬところで実感した。横浜の中華街では自分の足で見つけた店に入って食事や買い物をするのができ、とてもいい経験をした。

今回の研修旅行では普段感じることでできない企業の環境に対する心構えや、一つの仕事の大切さを学ぶことができた。来年からは就職活動が始まるが、今回感じたことを生かせるような就職活動をしたいと思う。

8

電気工学科

4E 福山 祐佳

私達電気工学科は京浜方面への研修旅行に行った。見学した会社は3ヶ所で、どこも大変興味深く中身のある研修だったと思う。

東芝京浜事業所は、サザエさんでおなじみのフレーズE&E（エネルギーとエレクトロニクス）の発展を目指し、優れたエネルギー機器の開発をされていた。工場内の見学では見慣れない巨大な発電機や高度な技術に圧倒された。また、危険が伴う作業であるため特に安全面にも気を配

られていたが、中には現場で働いておられる女性の方もいらっしゃるということで驚いた。NHK放送センターでは普通一般公開されない実際の仕事の現場を間近で見るという貴重な体験をすることができた。衛星放送のしくみも詳しく教えていただき、巨大なパラボラアンテナも間近で見ることができた。活気ある仕事場はとても魅力的だった。日本航空羽田整備工場では実際の飛行機を間近で見たが、そのあまりの大きさにただ驚くばかりであった。機体内部やエンジンの仕組みも実際に見ながら説明を受けられ勉強になった。



この4日間、それぞれの会社で最先端の技術とそれに関わる人を見て自分もこんな中で仕事してみたいと思った。そのために今高専で技術を身につけ、社会に通用するエンジニアになれるように努力しようと思った。



電子情報工学科

電子情報工学科は東京地区の研修旅行に行った。まず初日、(株)東芝日野工場へ。ここでは、主に携帯電話の製作現場を見せていただいた。驚いたのは、コンベア式の流れ作業ではなく、3人1組で作業をしていたことだ。全員が一通りの作業をし、助け合って行く。パーツがかなり単純化され、技術向上の凄さを思い知らされた。

2日目の科学技術館はあまり高専生向けだった船の科学館では、日本と西洋の新旧のことができた。

午後には日立製作所公共システム事業部館で利用されているようなシステムを様々



- M 東海・関東方面…ミノルタ豊川工場、トヨタ自動車元町工場、三菱重工航空宇宙システム製作所
- E 京浜方面……………フジテレビ、東芝京浜事業所、NHK放送センター、日本航空羽田整備工場
- I 関東方面……………東芝日野工場、日立製作所、日本航空羽田整備工場
- C シンガポール……三井ビスフェノールシンガポール、日立造船シンガポール
- A 奈良・京都方面…奈良・京都市内神社、仏閣、神戸市異人館

物質工学科

4C 松下 洋和

初日、福岡空港に集合した私たちはシンガポールへ出発した。飛行機が到着し、空港の外に出たときあまりの熱気にここは南国だと実感した。1日目の夜、高専の卒業生の方の講話を聞いた。海外で暮らす苦労話や会社のことを聞いているとお二人のたくましさを感じた。2日目訪れたシンガポール植物園では、Yam博士の講義を受けた。彼は自然にはない蘭を開発していて「蘭の開発は毎日新たな発見があり、毎朝ここに来るのが楽しみだ」と話していた。3日目、自主研修では各班に分かれて朝から晩まで脚が棒になるまで歩いた。昼食など現地の食べ物の味は今までに味わったことのないものだった。現地の人と慣れない英語で会話していると、向こうも意外とわかってきて、特にタクシー運転手との会話は面白かった。くたくたになったが楽しかった。最終日、日立造船シンガポールに着いた時、LNG船のあまりの大きさに驚いた。商売の世界は厳しい、安く質の高いものが勝つ。この日立造船では付加価値の高い特殊な船を造ろうと、すでに動き出していた。昼からはジュロン島(島全体が工業地帯)にある三井ビスフェノールを見学、工場内には巨大な装置が立ち並び他社の化学工場とパイプラインや道路でつながっていた。島にある工場の中には馴染みのある企業もあった。その後訪れたNgee Ann Polytechnic(現地の高専)はとても大きく、その学校紹介を聞いていると進んだ学校だなと感じた。この研修旅行を通して、普段の生活では絶対経験できないものを経験した。あと2年後に私たちが足を踏み入れるであろう社会の様子が少しわかった。残った学校生活を大切にしていきたいと思う。



4I 吉田 努



ではなく、小中学生対象といった感じだった。次に行

船が展示してあった。様々な船の模型を見てまわるこ
ろへ行き、公共システムについての説明を受けた。図書
な公共機関で利用できるように開発していた。企業と
しての日立についての質問に対しては細かく
説明していただいた。また、自社製品を必ず
使用するわけではなく、他社製品がよい場合
はその製品を使用する。製品の開発は他社と
の共同開発を行い、製作は自社で行うと聞いた。

最終日、日本航空羽田整備工場では、ミニ
チュアを片手にジャンボ機の説明があり、特
にジェットエンジンの質問に対して答えても
らった。

今回の研修旅行では、大企業でも中小企業
のように努力していることを実感した。

建築学科

4A 志垣 生野

小学生の時の遠足に行くような
気持ちと、着慣れないスーツのぎ
こちなさを感じながら福岡空港に
集合した。断髪前の舞の海関に出
会ったり、持ち物検査でブザーが
鳴る人や初の飛行機におびえる人
もいたが、無事に伊丹に降り立っ
た。

古建築では、世界最古の木造建
築である法隆寺金堂、日本一美し
い塔と称されている薬師寺東塔な
どを間近で見ると、教科書の写真
では感じることでできない木造建
築の大胆かつ繊細さ、そして細部
意匠や内部の像などから感じとれ
る古き時代からの力強さなどを感
じることができた。「百聞は一見に如かず」とはよく言ったものである。

現代建築では『サントリーミュージアム《安藤忠雄》』や『京都駅
ビル《原 広司》』など日本屈指の建築家の設計した建築を見て、外観
の壮大なスケールや美しさはもちろんの

こと、「人を集める」いや「人が集
まる」ための空間・平面計画の
すばらしさなどに気づき、感
心することばかりであった。

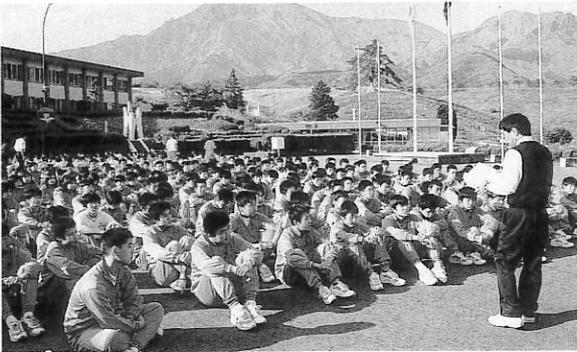
今回の研修で自分の目で
見たこと、自分の心で感じ
たことをこれからの勉学の
糧とし、クラスメイトとの
有意義な日々を永遠の思い出
としよう。



新入生オリエンテーション

平成12年5月23日～25日

阿蘇青年の家



研修を終えて

1 A 中嶋 美樹

私は、この研修で自分がいかに子どもだったかがわかりました。年上の人から注意を受けても、なぜ、注意を受けたかを考えるよりも、注意されたことに腹をたてていました。

一般的な世間での常識というものを理解していなかったのだと思います。高専は他の高校とは違い、卒業したらすぐに大半の人が社会人になっていくので、いつまでも甘えていないで、自分で考える人間にならないと思いました。団長さんたちや先生方は、それを教えてくれたと思います。

そして、私は勉強することに対しても、考えた方が変わったと思います。私は、中学校のころずっと順位などを気にしていました。それは、ただ親にほめてほしかっただけのためにがんばっていた勉強でした。私の両親は、勉強は自分のためにするものと考えていたので、私の成績にはあまり口を出しませんでした。だから、中学校のころほめてくれないから、もっとがんばればほめてくれるかも、という考えでずっと勉強してきました。だけど今は、両親が言っていたことがわかったような気がします。

これから私は、自分の目標を達成するために勉強をしようと思います。団長さんが言われたように、これからいろいろあると思いますが、この研修で学んだことを忘れずに、高専での5年間を頑張っていこうと思います。

怒られることで

1 M 川越 秀俊

集団生活のマナーを覚えるということの大切さを特に学べたのは、校歌を歌った時とオリエンティングの時でした。初日の夜、講堂で全員で叫んだ校歌。僕自身も声がかれるぐらい叫んでいたのに、

「お前らそんなんでいいとか!?!」

と団長は言う。もうヤケクソで叫んだ。終わってみると、なぜか少し機械科がまとまってきたように感じた。

オリエンティングの時には僕達の班だけ前日さんざん言われたのにバラバラに行動していた。そして班が二つに分かれていた時に、幸運にも団長にバツリと会ってしまい、

「班行動ができんなら、オリエンテーションなんかすんなノ帰れノ」

と怒鳴られた。一言あやまりを言って、みんな暗い顔で宿舎へと戻って行った。到着予定より1時間も早く帰り着いたため、先生が僕達に不思議そうな顔で話しかけてこられた。僕達が事情を話すと先生はこう言われた。「帰れというのは、本当に帰ってほしかったから言ったと思うか?それは、裏を返せば気合いを入れ直してもう一度しっかり頑張れという意味になるんだ。だからまだ時間があるんだからオリエンティングの続きに行ってこい。ほら、はよ行けノ」

確かに言われたとおりであった。僕達はみんなオリエンティングをしに行った。

バラバラに行動していた時は、実は自分自身もだけど他の班員が心配でならなかった。そして怒られることで改めて集団生活ということについて考えさせられた。

一人ひとりが意識して責任ある行動をとることがいかに大切かがわかり、阿蘇研修を終えた。



新入生歓迎行事

今年も4月19日(水)に新入生歓迎会が行われました。私たちの時もそうでしたが、初めて見る先輩たちに囲まれての自己紹介はとても緊張するものです。緊張のため小さな声しか出せなかった人、逆に大きな声で自分の名前を言えた人、いろんな人がいたと思います。

人前で、大きな声で話せることが大事なわけではないけれど、自分の名前を相手に伝えることは大切だと思います。1年生のみなさん、これからの学校生活の中で、自分にとって、大切な何かを手に入れていって下さい。
(5C 江川 誠)



キャンパスクリーンデー



去る5月9日(火)、キャンパスクリーンデーによる全校一斉清掃作業を行いました。当日は晴天に恵ま

れ、午後から授業をカットして、全学生、全教職員が清掃作業に励みました。校長先生、教務主事のあいさつの後、各学科・各クラスに分かれて作業を行いました。ここ1年余りの校舎改修工事のため、どこか殺伐としていた校内も、工事完了とともに今回のキャンパスクリーンデーで、校舎および校内がさっぱりとし、初夏を迎える準備ができたようです。

それまで10日近く晴天が続き、やや地面が乾いていたものの、平成4年に始まったキャンパスクリーンデーも9年目を迎え、作業の要領が良くなったこともあって、約2時間ほどの作業で校内が見違えるほどきれいになりました。グラウンドの西側にうず高く積まれた草の山を眺めて、自然のたくましさを感じました。次回は9月1日に予定されています。

(教務主事補 永守 知見)

春季球技大会

去る5月31日(水)、春季球技大会が行われました。残念ながら、前日から雨が続き、雨天時での球技大会となりました。雨天時の球技は、バレーボールA・B、

女子バレーボール、卓球を行いました。今回は3年生の活躍が目立ち、バレーボールでは3Eが優勝しました。

しかしながら、総合優勝は5Mでした。やはり5年生の結束力の強さを感じました。

(4A 田川 裕佳)

春季球技大会の成績

総合優勝	5 M	
優秀クラス	5 E	
種目	優勝	MVP
バレー A	3 E	寺田 拓磨
バレー B	4 M	山口 賢次郎
女子バレー	3 I	永松 明日香
卓球	5 M	阿比留 雅貴



岱明寮 掲示板 2000 April & May

寮生指導者研修 in 柳川

4月6日(木)~7日(金)、柳川かんぼの宿で指導者研修を行った。榎木寮長を始めとする寮生会役員、主事室、寮務委員、寮務係および寮母さんを含めた総勢34名で、午後と夜の2回研修会議を開き、指導體制および遵守事項の確認等に関して活発な討議の後、寮長から本年度の重点目標の発表があり、寮指導者としての認識を各自深めることができた。

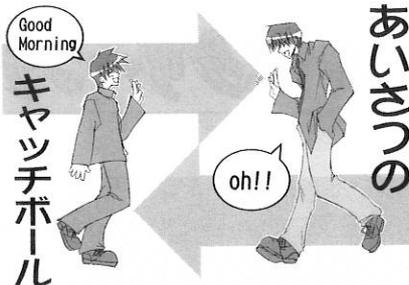


参加者全員で 一柳川かんぼの宿玄関

本年度重点目標

『あいさつのキャッチボール』……寮長作

今年のキャッチフレーズポスター完成!!



新入寮生歓迎行事

入寮式 4月11日(火) 12:30~

本年度は男子53名、女子12名の新入寮生を迎え、保護者同席のもと視聴覚教室で入寮式を行った。終始、緊張気味であった新入寮生も、その後寮食堂で保護者と食事を摂ったり、荷物を搬入したりするうちに少しずつ慣れ、初めての寮生活への決意を新たに、家族と別れた。

夕食会 4月13日(土) 17:30~

校長を始め多くの先生方の同席を得て、新入寮生歓迎夕食会が寮食堂で開催された。お祝いの食事をしながら全寮生の前で、新入寮生が緊張の面持ちで自己紹介を行ったが、同郷の先輩寮生による助太刀等もあり、和やかな雰囲気うちに終了した。

球技大会 4月15日(日) 9:00~

朝から雨模様のあいにくの天候だったが、今年も恒例の球技大会が行われた。今回は寮生会のアイデアで男女混合チームによる地域別対抗戦にしたが、問題もなく好評であった。



総合優勝……福岡Bチーム

よみがえった寮キャンパス

本年度の目標の一つに「Beautiful dormitory ~寮を美しく~」を掲げようと主事室から提案したところ、早速、寮生会が立ち上がり、整美・厚生局を中心に、まず花壇を復活させようということになった。寮母さんの協力もあり、2回の活動で寮花壇はよみがえり、新聞にも掲載された。この動きはさらに広がり、外部委託の方々の多大なるご尽力をいただいて、寮キャンパス内の徹底的な除草作業が行われ、公園のようにきれいなキャンパスがよみがえったのである。この一連の整美運動には寮務係の方々の献身的なサポート、事務部の援助があったことも忘れてはならない。今後は、美しい状態を維持することが大切であり、それには、寮生諸君の協力がなくてはならない。だれもが自分たちの寮を「Beautiful dormitory」と誇れるよう皆でやってみようではないか。



花壇と女子棟 (桜棟)

送辞 学生会会長 井口美智子

桜のつぼみも膨らみ始め、別れと出会いの季節がやってきました。とうとう今日は、先輩方を送り出す卒業式です。ご卒業おめでとうございます。在校生一同心からお喜びを申し上げます。しかしながら、祝福の気持ちと同時に別れるさびしさも胸にこみ上げてきます。

高専生活をスタートされてもう5年の月日がたちました。かけがえのない数多くの貴重な経験をされた5年間だったのではないのでしょうか。

高専は、高校と違って通う年月が長い分、友達との付き合いも深くなるためよい面よりも嫌な面を見ることが多かったかもしれません。時には喧嘩をしたり、誤解したこともあったかもしれません。しかし、喧嘩した分お互い分かり合える仲になって、自分のよい面や嫌な面含めてまるごと理解してくれる親友以上のいや、家族以上の関係が生まれ、強い絆で結ばれた生涯の友を得られたのではないのでしょうか。

人生には試練の時も待ち受けています。時には険しい荒野のような道を自分ひとりで切り開いて進まなければならないこともあるでしょう。あまりに大きい苦難に出会い行き詰まった時は、この有明高専での生活を思い出して下さい。また、親友や、お世話になった先生方に会いに行ってください。きっと夢と希望の灯を

あなた方の心に灯してくれることでしょう。そして、その灯をたやすことなく、この萩尾台で学んだ誇りと勇気をもって新しい世界を切り開き堂々と歩いてください。

4年前の春、私達が入学してきて、どの学年よりも一番お世話になったのが先輩方でした。勉強や部活動などでもいろんなことを教えていただきました。特に去年の体育祭では先輩方は、下級生を上手にまとめあげて、みごとな成功を収めましたね。あの時の先輩方と一緒に味わった感激は永遠に忘れることはできません。

4月から、私達4年生は最上級生となります。下級生を上手く引っ張っていく自信はまだありませんが、部活動や行事を通じて先輩方から教えていただいた有明高専の伝統を、すばらしい財産として後輩に受け継いでいきたいと思えます。私達在校生一同この萩尾台から先輩方の今後のご活躍とご健闘を祈っています。

以上で在校生代表のお祝いのあいさつといたします。



答辞 卒業生代表 落石 和親



梅の香りもたかい、今日の良き日に晴れて卒業式を迎えることができ、このうえない喜びと、感謝の気持ちでいっぱいです。校長先生の告辞、来賓の方々のご祝辞や、後輩諸君の温かいお祝いと激励の言葉をいただき、新たな出発への実感と言ひ知れぬ別れの寂しさを感じています。

私たちは、この5年間に多くの出会いを経験しました。入学当時、まだ右も左もわからなかった私たち。たくさん先輩方が時にはやさしく、そして時には厳しく、様々なことを教えてくださいました。また、尊敬すべき恩師と出会い、授業という枠を超えて多くのことを学びました。体育祭、高専祭、部活動などの学校行事を通し、生涯の友と呼んで恥じない最高の友人たちとの出会いもありました。全ての出会いに、この場では語り尽くせないほどのドラマがあります。その忘れることのできないドラマの一つひとつが、私たち

を大きく成長させてくれたことに違いありません。

卒業式のことを英語では、コメントメントと呼びます。コメントとは、新しいことを始めることを意味し、新しい人生の出発点を示す言葉です。私たちはこれから、自分の信じた道を歩き出します。それぞれが自分の夢を膨らませ、未知の世界を開拓しようとしています。それは簡単なことではありません。幾度となく、困難に直面することになるでしょう。しかし、高専で学んだことの全てが、どんな困難にも打ち勝つ大きな力となると確信しています。

在校生の諸君は、これからの高専生活で自分自身を見つめ直し、しっかりと自己を鍛練してください。そして、これまで先輩方と私たちとで築き上げてきた伝統を受け継ぎ、より良いものにしてください。

本日をもって有明高専を卒業しますが、これからは、この有明高専で得た大きな自信を胸に、決して奢らず、有明高専の卒業生であるという自覚を持って、これからの時代を切り開いていく覚悟です。どうか、今後ともご指導をいただきますようお願いいたします。

終わりに、私たちの歩みを助け、ご指導いただいた校長先生をはじめ、教職員の皆様、常に温かく見守ってくださった保護者の皆様、そして私たちが慕い、支えてくれた在校生の皆さん、本当に今までありがとうございました。ここに感謝の意を述べ、答辞といたします。

卒業生の進路

機械工学科	電気工学科	電子情報工学科	物質工学科	建築学科
(株)三井三池製作所 西日本プラント工業(株) 大橋エアシステム(株) (株)日本ボイラーメンテナンス社 (株)三井ハイテック グローバランス(株) (株)テクシア (株)サンコー 横河エンジニアリングサービス(株) 三菱重工(株)長崎造船所 セイコーエプソン(株) 大豊工業(株) 富士通サポート&サービス(株) (株)カンセツ 東京エレクトロン九州(株) 出光興産(株) (株)荏原フィールドテック 上野精機(株) 味の素(株) 西日本旅客鉄道(株) 三菱重工(株) 日本航空動力(株) 京セラ(株) 三井ハイテック熊本(株) 共栄樹脂(株) ミツミ電機(株) 久留米高専専攻科 鹿児島高専専攻科 熊本大学 山口大学 熊本工業大学 九州工業大学 バンタン映画映像学院	(株)ENG 九州電力(株) 安川プラントエンジニアリング(株) (株)乗富鉄工所 三井水道企業団 (株)MCS 明電エンジニアリング(株) (株)大阪メディアポート (株)トプコン 富士電機工事(株) (株)ミネベア大森製作所 東洋建設(株) (株)三井三池製作所 (株)佐賀エレクトロニクス (株)日立電子サービス 日本放送協会 (株)NTT西日本 (株)日立エンジニアリングサービス サントリー(株) (株)矢崎総業 (株)NHKアイテック (株)富士電エッジ 熊本ゼロックス(株) 佐世保高専専攻科 久留米高専専攻科 熊本大学 九州工業大学 長岡技術科学大学 佐賀大学 香蘭ファッションデザイン専門学校	精巧印刷(株) サン情報サービス(株) 九州セルラー(株) (株)サンテック J-PHONE九州(株) (株)福博アイテックス (株)ジャパンアウトソーシング NTTデータ九州テクシス(株) (株)九州テン 平井精密(株) (株)富士通ビジネスシステム (株)アルファシステムズ 富士電エッジ(株) 第二電電(株) 日信電子サービス(株) 京セラ(株) 三菱電機システムウェア(株) 有明システム(株) 道路通信エンジニア(株) セントラルソフト(株) 東芝エレベータ(株) (株)フルキャストウイズ 総合警備保障(株) (株)TST 九州工業大学 豊橋技術科学大学 熊本大学 千葉大学 平岡栄養士専門学校	室町ケミカル(株) 精巧印刷(株) 新日鉄化学(株) 大野城市役所 京セラ(株) 味の素(株) 大日精化工業(株) 東レ(株) HOYA(株) 共栄樹脂(株) 日本触媒(株) 三菱重工(株) 中外製薬(株) TDCソフトウェアエンジニアリング(株) P & G 富士通ビジネスシステム(株) 三洋化成工業(株) 佐賀大学 九州工業大学 熊本大学 長岡技術科学大学 東京水産大学 豊橋技術科学大学 長崎大学 久留米医師看護専門学校	片山鉄骨(株) 大成(株) 大森設計室 九州旅客鉄道(株) 大橋エアシステム(株) (株)緑 (株)西澤工務店 (株)エヌ・ティ・ティファンリティーズ 田原建築設計事務所 (株)九州不動産鑑定所 (株)大成住宅 西松建設(株) (株)竹中工務店 日本道路公団 住友不動産(株) 三田川金属工業(株) (株)熊谷組 (株)富士通ビジネスシステム 九州芸術工科大学 名古屋工業大学 琉球大学 熊本大学 九州大学 鹿児島大学 大分大学 豊橋技術科学大学 熊本デザイン専門学校 大村美容専門学校

卒業生の表彰

成績優秀者

M 山田 誠 E 遠藤 泰史 I 松本珠美江 C 中尾 友子 A 田中 宏明

学会賞

M 牛嶋 悟 (日本機械学会) 晶山賞 E 田中 克史 (電気学会) 九州支部長賞 I 永江 健児 (電子情報通信学会) 九州支部長賞 C 中尾 友子 (日本化学会) 九州支部長賞 A 田中 宏明 (日本建築学会) 九州支部長賞

5年間皆勤賞

E 井上 博文 E 遠藤 泰史 E 田中 克史 E 田中 義和 E 長 悦史 E 堤 晋也
 I 杉山香奈子 C 川上 真人 C 中尾 友子 C 春口 渉 A 永井 一也

5年間精勤賞

M 木山 敦 M 松岡健太郎 M 武藤 往也 M 山田 誠 E 北島 健介 E 古園井洋治
 E 近藤 大蔵 E 林 剛志 E 福原 進也 E 松本 準也 E 村上 仁彦 I 片山美樹雄
 I 嘉賀 祐貴 I 境 沙織 I 杉尾 聡美 I 永江 健児 I 松岡 浩美 I 松本珠美江
 I 實測 秀昭 I 宮崎 尊秀 C 福山 美輪 C 古川 浩章 C 森山 智代 A 石橋 和也
 A 岩田 篤資 A 江見 歩 A 田島真一朗 A 田中 宏明 A 藤田 智子 A 松永 悟
 A 光田 典雅 A 森 優希

留学生皆勤賞 (3年間無遅刻・無欠席)

I チュオン キュ リン

平成11年度 1年間皆勤賞

()内の数は1年間精勤者数

1 M 19 (9)	文樹登樹剛治治司洋光裕紀輔美央一介助平 将弘隆直 正正諭友宏智明大裕孝浩祐晃耕 磯井井井江大小久品末菅曾田野原松森野吉 野手上上口寄川保川吉原木嶋中崎本 田川 磯井井井江大小久品末菅曾田野原松森野吉	1 I	潤郎徹都徳 太 景一 慎 橋本 永橋橋川渡	2 M 12 (6)	崇章邦志久夫考介祐利平命 貴優真 敏也圭康治良主 友 立石 村藤賀島中岡田川武 足大岡岡加古田田友鍋前真 吉	3 M 9 (6)	亮香也作伍二仁憲ブ 文晋大慎浩和貞イ 井浦田田花原松龍ナ	4 M 11 (8)	史地史介郷幸烈吾士之男 精大智佑恵紀 圭博直稔 上悦澤野野藤崎村田嶋春 井嘉金狩河近篠中原藤邊
		1 C 19 (6)	子幸里子利二苗み美介子史愛介美織男りな エ 英代加裕早ゆ文大陽武 竜望沙英ゆり 橋藤田安 川田島須久野庄田宮 下下下 石伊黒末平田徳中那西平古前本森山山山藤	2 E 1 (15)	治彦史鹿里生 真 武鈴香幹 真 佳希雅詩卓貴美栄通宏 弓歩子子樹織司幸恵満子章 子ほ耶史弘凡	3 E 12 (4)	司次介平泰平作也也勝己貴 勝康健隼靖洋秀達正 裕尚 佐田口賀藤藤中戸中村野町 大釜川古近近坂瀬田中永深	4 E 10 (6)	隆規賢史紀也二仁美努 清裕 武仁達耕昭豊 河古高田筒寺中森山 野賀井川井井田山田下 坂野藤松
		1 A 11 (13)	也碧介鈴雅亮章佳佳香子 誠 康美康 好千由耶恵 部江田田保谷畑山岡村田 阿入上清久熊廣福松本米	2 C 12 (5)	川藤倉山本賀山山本尾田邊 石伊大小岸古立仲山横横渡 田中川山山下 清田西西三山	3 I 4 (4)	二優臣望 祐 敏琴 清武森 富田島 奥鬼古原久	4 I 4 (4)	樹朗幸司 直義和隆 川内美 奈和佳 北原中 紀子恵織良 田野口 麻紀智香智 畑星 子
1 E 10 (9)	介太桂章平聖郎志一広 優恒 孝亮 拓健進智 形村山内本永満園崎崎 井上大陣塚徳徳宮山山	2 A 6 (3)	智美敏容麻	3 I 3 (3)	介介臣 啓俊孝 奈恵美由友	4 I 4 (4)	子明代 奈和佳 紀子恵織良		
1 I 14 (10)	香徹美萌緒太幸聡樹 千 聡 菜健見 崎添塚力崎中口中山 亀川塩四田田田谷仲	2 A 6 (3)	智美敏容麻	3 A 5 (5)	子介啓樹治 奈恵美由友 加丸賀 繁見	4 A 5 (7)	紀子恵織良 麻紀智香智		

平成11年度 実用英語・工業英語検定試験合格者

平成11年度の実用英検、工業英検受験者の合格者をお知らせします。
 本校は、平成11年度に実用英検に積極的に取り組み、教育の一環として
 実用英検を意欲的に活用したとして、日本英語検定協会から奨励賞を受賞
 しました。
 平成12年度も学生諸君が英検にチャレンジすることを大いに期待してい
 ます。



(奨励賞の楯)

2 級	1 C 進藤なつみ	2 I 野原 明信	4 E 山下 努						
準 2 級	1 E 武末 翔吾	1 C 橋本 佳奈	2 M 今村 智	2 E 有吉 徹	2 E 立山 茂憲	2 I 大津 茜			
	2 I 鈴木 麻美	2 I 田中 麻美	2 I 田中 拓己	2 I 辻 亜由美	2 I 永松明日香	2 I 尾田 智春			
	2 I 亀井 美香	2 I 菊池加奈子	2 I 野田 真一	2 I 野原 明信	2 I 元山 幹生	2 I 森山 元喜			
	2 I 伊藤 愛美	2 I 荻島 都	2 I 幸田 直也	2 I 谷山 加奈	2 C 荒木 秀一	2 C 中村 裕介			
	2 C 森 靖幸	2 C 横田 通子	2 A 坂口 朱	2 A 浦野 一正	2 A 加藤ひとみ	2 A 黒木 佳奈			
	2 A 古賀ゆかり	2 A 諏訪園美帆	2 A 清家 孝博	2 A 月岡菜美	2 A 村山慎太郎	2 A 山岡 史歩			
	2 A 山下 麻凡	2 A 古賀 梓	2 A 田中 みほ	2 A 中園 香織	2 A 西川 美耶	3 M 志賀 崇			
	3 M 加藤 大	3 M 満永 順一	3 M 柳迫しのぶ	3 M 田上 晋也	3 M 畑野 佑介	3 E 古閑 康朗			
	3 E 釜田 康次	3 E 豊永 佳隆	3 I 牛島 瑞恵	3 I 豊田麻梨子	3 I 中山 憲征	3 I 野田 篤史			
	3 I 安永 和広	3 I 山鹿 敏臣	3 I 馬場 敬尚	3 C 清富 啓介	3 C 原口 典子	3 C 三浦 志穂			
	3 C 森島 孝臣	3 A 今村 晶子	3 A 神谷晋太郎	3 A 西田 朋美	3 A 山田留美加	3 A 江島 大輔			
	3 A 田川 裕佳	3 A 野村もともみ	3 A 原口 舞子	3 A 前田 圭子	3 A 山田留美加	4 C 堀川 真希			
4 A 長瀬美保子	5 E 遠藤 泰史	5 E 福原 進也							
3 級	1 E 4名	1 C 2名	2 C 1名						
工業英検 3 級	3 M 新開 隆史	4 M 横山 僚治	4 E 山下 努	5 C 松本 暁典	5 C 森山 智代	5 C 若原 修平			

校舎の増築・改築が竣工

平成11年度、約1年間にわたって行われた一般棟の全面改修と専門学科棟の増築および一部改修が終了した。今回の増・改築のいちばんの目的はもちろん建てから35年経過して老朽化が進んでいる建物のリフレッシュである。それに加えて、狭い教室の解消がある。本校では前々から3学年の位置付けについて検討を重ね、3学年を専門学科の前段階としてではなく、専門学科の初期段階として位置付ける構想を持っていた。それが今回の予算措置によって一気にハード面も含めて実現することになった。つまり、3学年の教室を専門学科棟に移す予算がついたのである。これによって一般科目棟から5教室がなくなり、狭い教室の解消も可能になった。今回の改修、増築を大ざっぱに言えば、3学年を専門学科に受け入れるため、専門学科棟の増築と一般科目棟から3学年の5教室が出て行ったために生じた余裕をもって、これまでの3教室をもって2教室にするという広い教室の確保になる。もちろん教室が広くなっただけではない。一般科目

棟にはこれまでなかった情報化対応スペースが2部屋と多目的室ができたし、専門学科棟の増築部分も単に教室の確保だけでなく実験室等の充実をはかることができた。各棟の名称もこれまでの一般棟、選択棟という呼び名を改め、一般教育北棟、南棟として、新たに増築させた専門学科棟の呼び名は合同教育北棟、南棟とした。

今回の改修にあたっては、仮設の教室を設けることができなかったため、現有施設に一般科目棟の教室等を収容しなければならなかった。そのため学校全体でかなり窮屈な思いをした。加えて、改修棟の明け渡し、増・改築棟への搬入と2度も移転を強いられたが、これもこれも有明高専がまた新しく生まれ変わり、新しく飛躍するための生みの苦しみであった。

ただ、専門学科棟の改修は3学年の教室のための改修部分を除けばほとんど手付かずのままで、次回の予算措置を待たねばならない。

(移転委員会委員長 瀬戸 洋)

情報化対応スペース



一般教育北棟のソーラーパネル



合同教育北棟



電子基礎実験室



一般教育北棟のテラス



新しい2A教室



～ 編集後記 ～

今回の増改築工事によって、低学年については狭隘教室の解消が図られゆとりができた。学生諸君の気持ちや友達との交流にも、今までよりゆとりと思いやりの精神が宿るものと期待される。

地球が有限であることの観点から、大量生産、大量消費社会ではやっていけないことを人類はやっと自覚し始めた。太陽光発電システムも設置されたこの増改築を機に、学生・教職員みんなでエコ生活を心がけよう。校舎を汚さず後輩に渡すためにも清掃に努めよう。常にきれいな環境で学びたいものだ。

有明高専だより 第101号

平成12年6月22日発行

編集・有明高専広報委員会

発行・有明工業高等専門学校

〒836-8585 大牟田市東萩尾150

TEL 0944-53-8861(学生課)

<http://www.ariake-nct.ac.jp/>